

「平成 15 年度機器・分析技術研究会」に参加して

高 田 昇 冶

今回、私は平成 15 年 11 月 20 日～21 日に三重大山翠ホールで開催されました平成 15 年度機器・分析技術研究会に技術部より旅費を工面して頂いて参加してきましたので報告いたします。

研究会では、まず研究会実行委員長の市川氏より挨拶があり、研究会への発表参加者が 58 名に達したことなどを報告されました。引き続き副学長の菅原先生より挨拶がありました。三重大の立地環境や大学が大学周辺の地方自治体と共同で取り組みを行っていることなどを紹介されました。最後に、工学研究科長の加藤先生が、法人化後の大学や組織などについて意見を述べられました。このあと初日に予定されていた口頭発表 7 件、およびポスター 37 件の報告がありました。その内容は、分析機器の操作および分析手法（情報分析もあった）などに関する技術、あるいは失敗談や所属機関、センターの組織紹介、研修実施方法など実に多彩でありました。口頭発表後、若干の時間を割いて、本研究会開催のこれまでの経緯と運営方法について説明がありました。第 1 回の研究会が分子科学研究所で開催され、以降本研究会の開催に多大なご尽力をされた分子科学研究所技術課長の酒井氏が平成 16 年 3 月に定年退職されるため感謝の意をこめた花束贈呈のセレモニーがありました。さて、初日の最後は、懇親会であります。各大学の方々と技術的なことは勿論、法人化を向かえる大学の実情などについても色々話し合うことが出来ました。二日目は、



口頭発表 14 件がありました。自分もその内の一人でありま
（上）会場入口 （真中）ポスター会場
す。常日頃、研究サポートで行っているフロロカーボン膜の
（下）懇親会にて
XPS 分析について報告しました。数人の方から貴重な質問やコメントを頂きました。予定をしていた発表が全て終わると、実行委員長から本研究会への参加は、40 の機関から述べ 160 人を超える参加者数であったと報告がありました。また次回の開催地は、佐賀大学で行うこともアナウンスされました。最後に、私の感想ですが、本研究会へはほぼ毎回参加しているのですが、本研究会は、発表に対する質問や意見交換が積極的に行われており、この研究会に参加することが実に大切であることをあらためて痛感しました。本研究会への参加旅費を支出していただいた技術部に感謝いたします。